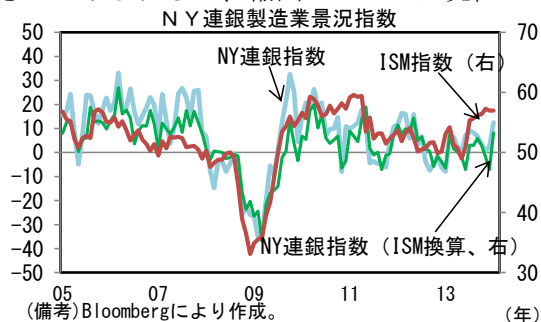


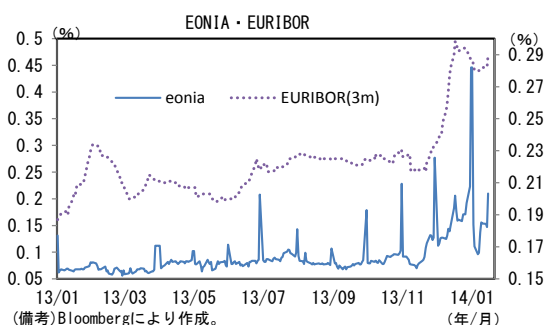
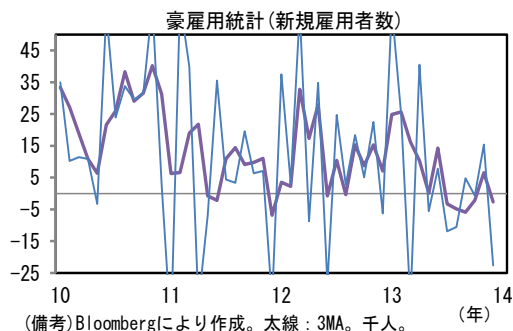
### 【海外株式市場・経済指標他】 ~S & P 500最高値更新~

- ・ NYダウ平均株価は前日比+108.08ドルの16481.94ドルで取引を終了。決算、米経済指標が好感された。
- ・ 1月NY連銀製造業景況指数は12.51と前月改定値(+2.22)から大きく改善し、市場予想(+3.50)を上回った。ISM換算でも53.3と前月(47.2)から著しい改善を示し、ISM指数とのギャップも縮小した。内訳をみると、出荷(+4.69→+15.52)、新規受注(▲1.69→+10.98)が大きく改善したほか、雇用(0.00→+12.2)と週平均労働時間(▲10.84→+1.22)も非常に強かった。北部を襲った寒波にも拘らず、NY連銀地区の製造業活動が拡大したことはヘッドラインの改善以上にポジティブだろう。
- ・ 12月PPIは前月比+0.4%と予想に一致し、前年比では+1.2%と前月(+0.7%)から加速。もともと、全体を押し上げたのはガソリン(前月比+2.2%)とタバコ(同+3.6%)で需給の引き締まりを反映したものではない。コアは前月比+0.3%、前年比では+1.4%と前月から0.1ptの上昇に留まった。
- ・ 11月ユーロ圏貿易収支(SA)は1600億ユーロと過去最大(13/3:1719億ユーロ)に肉薄した。ただ、内訳をみると輸出と輸入がそれぞれ▲0.1%、▲1.3%と減少している。輸入についてはエネルギー価格の下落も大きいとみられるが、輸出については既往のユーロ高が影響した可能性を示唆している。



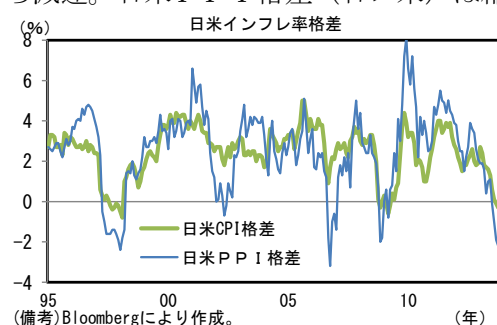
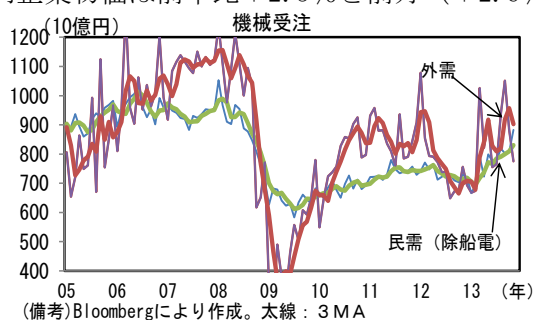
## 【外国為替相場・債券市場】～またEONIAが・・・～

- ・15日の海外時間ではUSDの強さが目立った。米経済指標を受けて米金利が上昇する傍らUSD買いが加速。USD/JPYは104.60近傍、EUR/USDは1.358近傍までUSD買いが進んだ。もっとも、JPYの下落は他通貨に比べて小幅でクロス円は軟調。新興国通貨は全面安。16日の日本時間では豪雇用統計の下振れ（前月差▲2.26万人、予想：+1.00万人）を受けてAUDが急落。USD/JPYは105を目指す場面があった。
- ・米10年金利は+2.0bpの2.89%。一時2.91%まで上昇したが、エバンス総裁の発言などを受けて上昇幅を縮小。欧州債市場は独金利が上昇（+1.1bp）の一方で周縁国国債金利が低下。対独スプレッドは一段と縮小した。一方、EONIAは0.210%と12/30（0.223%）の水準に接近。EURIBOR（3m）も上昇した。



## 【国内株式市場・経済指標他】～機械受注は堅調～

- ・日経平均株価は前日比▲61.53円の61.53円で取引を終了。欧米株高とUSD/JPY上昇を受けて高寄り後、利益確定売りに押された。
- ・11月コア機械受注は前月比+9.3%と市場予想（+1.1%）を大きく上回り、08年7月以来の高水準を記録。紙・パ（+334.1%）、石油・石炭（+390.5%）の大型案件が全体を押し上げたが、自動車・同付属品（▲2.2%）と電気機械（▲2.3%）が前月の急伸後にも拘らず、僅かな減少に留まったことも大きい。一方、外需は▲12.2%と2ヶ月連続の減少。アジア経済の回復の鈍さが影響している可能性がある。
- ・12月国内企業物価は前年比+2.5%と前月（+2.6%）から減速。日米PPI格差（日>米）は縮小した。



## 【注目点】～そろそろ日銀に注目、先ずは声明文から～

- ・昨日の当レポートでも指摘とおり4月の追加緩和はもはやコンセンサスとなりつつある。しかしながら、日銀が追加緩和に踏み切る動意に乏しいのは事実。GDPやCPIが日銀見通しに沿って推移しているほか、最近では（預貸ギャップは拡大しているが）銀行貸出残高も徐々に増加ペースを強めており、ポートフォリオバランスも解釈次第では順調に進捗していると言えるからだ。
- ・こうした順調な日本経済の足枷と成り得るのは消費税のみと言っても過言ではない。しかし、声明文（リスク項目）には「消費税」が登場していない。「消費税→追加緩和」という連想が市場に働くことを避けているのかもしれないが、今年の最重要リスクである消費税率上げが記載されないのは何とも不自然だ。日銀が追加緩和を真剣に検討しているとするれば、3月までの会合で「消費税」という文言が声明文に示されるのではないだろうか。その場合、日銀が“追加緩和に前向き”と捉えて問題ないと思われる。